

アニマルトラッキング

農学部附属演習林・北海道演習林 村田秀介

1. 北海道演習林概要

北海道東部，十勝支庁管内足寄町に所在し，3711haの森林を所有している．標高100～450mの丘陵性の台地上に，ミズナラやイタヤカエデなどの樹種で構成された落葉広葉樹林が広がる．人工林は全体の約3割を占め，その大半がカラマツ林である．年平均気温6.3℃，年降水量579mm，最深積雪量56.5cmで，気温の日較差や年較差が大きく，降水量が少ないという内陸的な特性をもつ．冬の間は雪に覆われ，アニマルトラッキングにぴったりの季節である．アニマルトラッキングとは，残された痕跡から動物の種類や行動を読み取る観察方法で，学生実習や地元の子供たちの自然体験等でも取り入れている．

2. 北海道演習林で見られる動物たち

- ・エゾシカ・・・体長・体重ともにキュウシュウジカの約1.5倍．

オスの成獣では大きいもので体長190cm，体重130kgにもなる．

- ・エゾヒグマ・・・九州のツキノワグマは絶滅？

冬ごもりをする．雪の上に足跡が見られるのは，初雪や雪解けの時期．

- ・キタキツネ・・・九州で野生のキツネを見る機会は極まれだが，北海道では頻繁に見かける．夜になると市街地や道路沿いにも姿を現す．

- ・エゾタヌキ・・・九州のタヌキは周年活動だが，エゾタヌキは冬ごもりをする．

- ・エゾユキウサギ・・・冬になると毛が白くなる．耳の先だけ黒い．

演習林内での目撃情報は少ないが，足跡は至るところで見かける．

- ・エゾリス・エゾシマリス・エゾモモンガ

・・・九州のニホンリスは絶滅？

エゾリスは基本樹上生活だが，早朝に地上に下りてきて，秋のうちに地中に埋めておいたエサを掘り返して食べる．

エゾシマリスは冬ごもりし，エゾモモンガは完全な樹上生活．

- ・エゾヤチネズミ・エゾアカネズミ・ヒメネズミなど

・・・主に雪の下に掘ったトンネルを利用して生活する．

※九州に生息するイノシシやサルは北海道では見られない．